

Title	本堂記事
Author(s)	
Citation	懐徳. 1929, 7, p. 106-107
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88802
rights	
Note	

## The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

 $\verb|https://ir.library.osaka-u.ac.jp/|$ 

The University of Osaka

\_

徳碑」同あり、

同 十三年子先生年六十歲

一月十日。御講書控を命ぜらる、

を懷德堂に祭り、後大阪阿倍野塋域に葬る、る、是日歿す、越にて三日火化、尋で八月十日遺骨を以て從四位に陸り勳四等に叙し、瑞寳章を賜は及び尿毒症を併發し危篤に陷る、同月三十日、特旨五月十一日疾に遭ふ、七月廿九日肺炎、神經衰弱

## 本 堂 記 事

あり。 記念祭典 昭和三年十月六日記念祭典執行、文學

年三月八日正式に就任の承諾を得たり。士財津愛象先生を迎ふべく交渉中のところ、昭和四教授就任 豫て本堂教授に大阪高等學校教授文學

請待し、財津教授披露宴を北濱風月堂に催す。 財津教授披露宴 四月七日堂友會員並に聽講生を

四月十七日の水曜より左の講義を開始す。阪高等學校教授文學博士秋月胤繼先生を講師に聘し曜の講義を中止したるが、財津教授就任と同時に大水曜講義復活「松山教授、稻束講師逝去により水

事記、同外事記、同建立記、草茅危言 履軒畵像につき御説明申上げ記念撮影の後三時十分 山階宮晃親王殿下御下賜小刀、白鹿洞揭示、懷德堂內 それより今井理事の先導にて大講堂に御案内陳 津教授より本堂沿革及 聖旨の傳達あり、 小講堂)に御案内、この時侍從より小倉理事長に對し 成 午後二時四十分畏くも甘露寺侍從を本堂に御差遣 聽講生等御出迎へ申上げ、小倉理事長先導休憩室(南 **阎野幹事、財津教授、吉田助教授、林講師、堂友會員、** の日小倉理事長、今井、木間瀬兩理事、野々村評議員 b, 侍從御差遣 大學(秋月博士) 王夢曾中國文學史(財津敎授) 親しく本堂の事業につき聽取せられたり。是 聖上陛下大阪行幸に際し、 小倉理事長謹んで御禮言上の び事業の概要を御説明 壁書二枚、 六月四 申 列 上ぐ 後財 相 H

退出せられたりの

倶樂部に請待し、各々財津教授就任紹介の宴を催す。 士佐々木恒清先生を定日講義講師に囑託す、 佐々木文學士 財津教授披露宴 同二十八日本堂役員、職員、各官衙長官を大阪 九月一日、 六月二十五日京大教授を都ホテ 大阪高等學校教授文學

新に開講するもの左の如し 定日講義 月曜 神皇正統記(佐々木講)

第三期の講義講演

昭和四年第三期の講義講演

单

文科講義 金曜 木曜 文選抄(財津教授)

帥

講通 演俗 (經濟と道徳 (陽明學講話 農業經濟 (同)農學博士 (自九月)文學博士 高瀨武次郎先生 同 )法學博士 橋本傳左衛門先生 田島錦治先生

## 本 記 惠

斡 事 Ш 本 楢

信

記

意見開陳あり、 あり、 らる にうつる、 これに賛意を表するの言ありて、 會員小松君は聽講の禮節に就て提議し、 幹事改選は决定を會長にお願ひすることにしました 旨報告した、 本會々長さして推戴。 昭和四年四月七日、 大講堂で總會を開催 あひつゝ、午後三時會員の過半數が懷德堂に集合 の後に一陽來復の春を迎ふるやうなよろこびに欣び 財津愛象先生を教授として仰ぐことゝなり長き嚴寒 > 小沼幹事座長として一同に詢 理事長小倉正恒先生を迎へ、 講義に對する質問に就て、 太田酒井兩幹事會計庶務の報告をなし 途中一時中止して記念寫眞撮影、 總• した 先生の御承諾をうけて、 劈頭理事長の新教授披露 曩に深切なる理解を有せ 總會を閉ぢ茶話會 9 いま又最適任 會員今西君の 小沼幹事の 財津先生を その 小 0